

2021 年度入試状況分析【国公立大】

※本文内の（ ）内の数値は志願者数の前年度確定数との対比指数を表します。

□医学科全体の減少傾向に歯止め。前期は7年ぶりに微増、後期は2年連続減少

〔志願者数推移〕

		2021年度	増減数	指数	2020年度	2019年度	2018年度	2017年度	2016年度	2015年度	2014年度	2013年度
募集人員	前期	3,604	+7	100	3,597	3,644	3,676	3,699	3,683	3,653	3,614	3,592
	後期	408	-46	90	454	524	539	541	556	586	611	651
	合計	4,012	-37	99	4,049	4,168	4,215	4,240	4,239	4,239	4,225	4,243
志願者数	前期	14,773	+31	100	14,742	16,390	17,064	18,093	18,342	18,999	19,919	19,674
	後期	7,110	-294	96	7,404	9,081	8,969	9,927	10,073	11,047	12,586	12,813
	合計	21,883	-263	99	22,146	25,471	26,033	28,020	28,415	30,046	32,505	32,487
志願倍率	前期	4.10			4.10	4.50	4.64	4.89	4.99	5.20	5.51	5.48
	後期	17.43			16.31	17.33	16.64	18.35	18.12	18.85	20.60	19.68
	合計	5.45			5.47	6.11	6.18	6.61	6.70	7.09	7.69	7.66

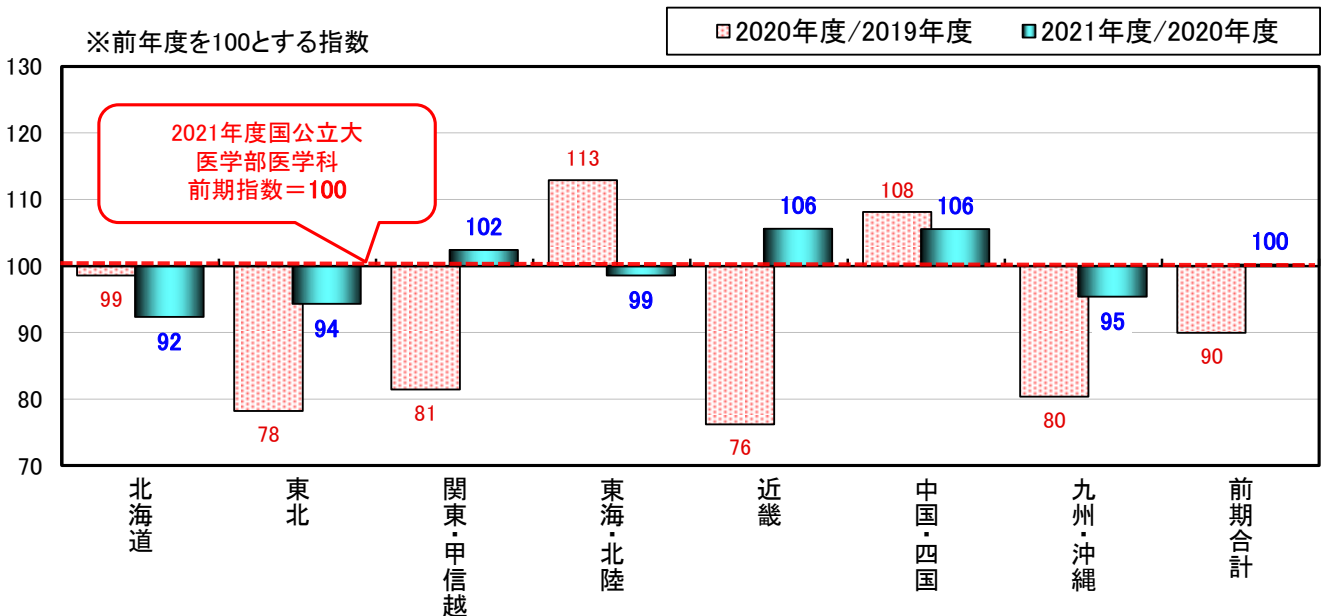
医学部医学科(以下「医学科」)全体の志願者数は、後期募集廃止大学の増加、医学科入学定員増による既卒受験生の減少などの減少要因がありましたが、コロナ禍の中で医学への関心の高まりと共に、固い志望動機を持つ医学科志望者の他系統への志望変更が抑制された結果、263人(99)の微減に留まり、前年度並で医学科志望者の減少傾向に一定の歯止めがかかりました。

日程別では、前期は31人(100)の微増ですが、7年ぶりに減少が止まりました。一方で、後期は294人(96)のやや減少で2年連続減少しました。この要因は、香川大、愛媛大の後期募集廃止でした。この2大学を除いた大学合計での比較では、(109)と増加しました。この結果、志願倍率は前期が4.10倍→4.10倍と変化はなく、後期は16.31倍→17.43倍と1.12ポイントアップとなり、後期で競争が厳しくなりました。

□前期の地区別では北海道、東北、九州・沖縄が減少

〔地区別志願者指数〕

<前期日程>



前期合計では31人(100)の微増でした。地区別では、近畿(106)、中国・四国(106)はやや増加、関東・甲信越(102)は微増となりました。一方で、北海道(92)は減少、東北(94)、九州・沖縄(95)はやや減少、東海・北陸(99)は微減となりました。

○北海道(92)：旭川医科大(100)は第1段階選抜基準が厳しくなったが、前年度と全く同じ志願者数。札幌医科大(86)、北海道大(92)が減少。

○東北(94)：福島県立医科大(159)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、秋田大(67)は前年度大幅増

2021 年度入試状況分析【国公立大】

加の反動で大幅減少。弘前大(75)は入試科目が変更となり、総合問題と面接のみとなったため教科の学力に自信を持つ層に敬遠され大幅減少。山形大(89)は減少で5年連続減少。

○関東・甲信越(102)：信州大(128)は第1段階選抜基準が厳しくなったが、前年度大幅減少の反動で大幅増加、筑波大(117)は2年連続大幅減少の反動で大幅増加。一方で、新潟大(89)は減少で2年連続減少、群馬大(93)はやや減少で2年連続減少。

○東海・北陸(99)：三重大(135)は大幅増加で2年連続増加、名古屋大(117)はコロナ禍対応として面接を書類審査に変更した影響もあり、2年連続大幅増加。一方で、福井大(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、岐阜大(87)は前年度大幅増加の反動で減少、富山大(88)は減少で2年連続減少。

○近畿(106)：和歌山県立医科大(142)は前年度半減以下の減少の反動で大幅増加、京都府立医科大(111)、大阪市立大(110)、京都大(108)、神戸大(104)、滋賀医科大(103)はいずれも前年度減少の反動で増加。一方で、前年度唯一増加だった大阪大(84)は大幅減少、奈良県立医科大(94)は2年連続減少。

○中国・四国(95)：愛媛大(174)、香川大(133)は後期廃止により前期募集人員増加のため大幅増加、徳島大(140)は前年度大幅減少の反動で大幅増加、前年度の反動による増減が継続。一方で、高知大(74)は前年度大幅増加の反動で大幅減少、島根大(86)、岡山大(95)は前年度増加の反動で減少、鳥取大(93)はやや減少で3年連続減少。

○九州・沖縄(106)：長崎大(149)、宮崎大(131)、琉球大(119)は前年度大幅減少の反動で大幅増加。一方で、大分大(62)は地元出身者枠新設もあり大幅減少、熊本大(68)、鹿児島大(75)は2年連続減少、佐賀大(89)は3年連続減少。

<後期日程>

後期合計では294人(96)のやや減少で2年連続減少しました。

地区別では、1大学のみ地区では、山口大のみ募集の中国・四国(20)は香川大、愛媛大の後期廃止のため8割減の激減。香川大、愛媛大を除く山口大(99)のみでは前年度並。旭川医科大のみ募集の北海道(35)は第1段階選抜基準の変更による激減で2年連続大幅減少、志願倍率は35.9倍→12.5倍に緩和、奈良県立医科大のみ募集の近畿(92)は前年度増加の反動で減少しました。

複数大学の募集がある4地区では増減が目立ったのは、東海・北陸(140)、九州・沖縄(116)で大幅増加。一方で、東北(94)はやや減少。

○東北(94)：山形大(77)は大幅減少で2年連続減少。秋田大(104)は前年度減少の反動は小さくやや増加。

○関東・甲信越(100)：千葉大(116)のみ大幅増加で2年連続増加。一方で、東京医科歯科大(89)は2年連続減少、山梨大(95)はやや減少で2年連続減少。

○東海・北陸(140)：岐阜大(177)は前年度減少の反動で激増、浜松医科大(162)は2年連続激増、三重大(151)、富山大(126)は前年度減少の反動で大幅増加。一方で、福井大(81)は前年度大幅増加の反動で大幅減少。

○九州・沖縄(116)：全大学が増加。琉球大(129)、鹿児島大(111)、宮崎大(111)は前年度減少の反動で増加、佐賀大(111)は2年連続増加。

2021 年度入試状況分析【国公立大】

〔大学別志願状況〕

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2021年度		2020年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2021年度	2020年度	2019年度	
北海道	旭川医科大	前		550	350	±0	100	40	279	46	279	7.0	6.1	9.0	<p><変更点>第1段階選抜基準:約10倍⇒約5倍 <個>数<100>+外<100>+面<150> =総点<350> ⇒数<150>+外<150>+面<50> =総点<350> ※面接:集団⇒個人 志願者数は前年度と同数だが、募集人員に特別選抜の欠員増がなかったため、志願倍率は7.0倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は72.0%だった。</p> <p><変更点>第1段階選抜基準:約10倍⇒約5倍 <個>理+面⇒外+面 ※面接:集団⇒個人 第1段階選抜基準が厳しくなったため、大幅減少。志願倍率は12.5倍にダウン。2年連続して後期で最も志願者数が減少した。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.0%だった。</p> <p>減少で、前年度の反動による増減が継続。 ※募集人員は総合型・国際総合入試の欠員部の4人を含む(2020年度5人)。</p> <p>一般枠は減少で、志願倍率は2.9倍⇒2.6倍にダウン。先進研修連携枠は大幅減少で、志願倍率は4.8倍⇒4.0倍にダウン。</p>
		後		600	250	-187	35	8	100	8	287	12.5	35.9	40.1	
	北海道大	前		300	525	-28	92	101	338	102	366	3.3	3.6	3.0	
	札幌医科大	前		700	700	-6	90	20	52	20	58	2.6	2.9	4.0	
			先進研修連携枠			-40	85	55	222	55	262	4.0	4.8		
東北	弘前大	前		1000	500	-75	69	50	168	50	243	3.4	4.9	8.1	<p><変更点>募集人員:(定着枠)20人⇒15人 <個>数<300>+外<300>+面<300> =総点<900> ⇒面<200>+総合問題<300> =総点<500> 入試科目変更で総合問題と面接のみとなったため教科の学力に自信を持つ層に敬遠され、2年連続大幅減少。</p>
		定着枠		1000	500	-13	88	15	96	20	109	6.4	5.5	15.5	
	東北大	前		250	950	-9	96	77	243	77	252	3.2	3.3	3.4	やや減少で4年連続減少。
	秋田大	前		550	400	-120	67	55	244	55	364	4.4	6.6	3.6	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も6.6倍⇒4.4倍にダウン。
		後		700	300	+12	104	20	312	20	338	15.6	16.9	16.8	<変更点>募集人員:(地域枠)0人⇒4人 新規に地域枠を実施。一般枠の志願倍率は16.9倍⇒15.6倍にダウン。
				地域枠					4	38			9.5		
	山形大	前		900	700	-56	89	65	214	65	270	3.3	4.2	3.8	<変更点>募集人員:(一般枠・定着枠)65人 ⇒(一般枠)65人、(地域枠)8人 募集人員増加だが、減少で5年連続減少。
			地域枠					8	27			3.4			
		後		900	100	-45	77	15	147	15	192	9.8	12.8	13.9	大幅減少で2年連続減少。志願倍率も12.8倍⇒9.8倍にダウンし、1桁台となった。
福島県立医科大	前		650	660	+117	161	50	310	50	193	6.2	3.9	7.1	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率は一般枠で3.9倍⇒6.2倍に、地域枠で2.4倍⇒4.0倍にどちらもアップ。 ※2020年度地域枠の募集人員には推薦入試欠員分の2人を含む。	
			地域枠			+43	156	30	120	32	77	4.0	2.4	6.2	
関東・甲信越	筑波大	前		900	1400	+39	133	44	158	49	119	3.6	2.4	3.0	<変更点>募集人員:(一般枠)49人⇒44人 (地域枠)19人⇒18人 <個>数+理2+外+適性試験 ※数:数II+数III+数B ⇒数+理2+外+適性試験 ※数:数I+数II+数III+数A+数B 一般枠は募集人員減少だが、4年連続減少の反動で大幅増加。地域枠は募集人員減少もあり、前年度倍増の反動で大幅減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は69.6%だった。
				茨城県枠			-9	84	8	48	9	40	2.7	4.4	2.0
				全国枠					10		10	17		1.7	
	群馬大	前		450	450	-5	97	65	164	65	169	2.5	2.6	3.6	一般枠はやや減少、地域医療枠は大幅減少でどちらも2年連続減少。
				地域医療枠			-9	73	6	24	6	33	4.0	5.5	6.5
	千葉大	前		450	1000	+53	119	82	331	82	278	4.0	3.4	3.4	一般枠は大幅増加、地域枠は半減近い大幅減少と対照的。
			地域枠			-41	52	15	44	15	85	2.9	5.7		
		後		450	1000	+108	139	15	388	15	280	25.9	18.7	18.0	一般枠は大幅増加、地域枠は半減以下の大幅減少と対照的。
			地域枠			-48	48	5	45	5	93	9.0	18.6		
東京大	前		110	440	-28	93	97	385	97	413	4.0	4.3	4.2	<変更点><共テ>英(筆記) ⇒英(リーディング+リスニング) やや減少で、前年度4年ぶりの増加から再び減少に転じた。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は88.3%だった。	

2021年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2021年度		2020年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2021年度	2020年度	2019年度	
関東・甲信越	東京医科歯科大	前		180	360	-28	92	79	316	81	344	4.0	4.2	3.9	<変更点>募集人員:81人⇒79人 募集人員減少で前年度やや増加だったが、減少となった。
		後		500	200	-18	89	10	150	10	168	15.0	16.8	20.2	減少で2年連続減少。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.0%だった。
	横浜市立大	前		1000	1200	+20	108	58	260	58	240	3.7	3.2	4.2	<変更点>第1段階選抜基準:約3倍 ⇒共通テストの配点の合計点原則750点以上、倍率約3倍 募集人員:(地域枠)14人⇒(地域枠)10人 前年度大幅減少の反動で増加。
		地域枠						10		14					
		診療科枠						2		2					
新潟大	前			750	1200	-37	89	80	307	80	344	3.8	4.3	6.0	減少で2年連続減少。志願倍率も4.3倍→3.8倍にダウン。
山梨大	後			1100	1200	-50	95	90	1057	90	1107	11.7	12.3	14.4	<変更点><共テ>国<200>+歴公<100>+数2<100> +理2<100>+外<300>=総点<800> ⇒国<200>+歴公<100>+数2<100> +理2<100>+外<600> =総点<1,100> 配点変更もあり、減少で2年連続減少。志願倍率は12.3倍→11.7倍にダウン。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は85.3%だった。
信州大	前			450	600	+104	128	95	476	95	372	5.0	3.9	6.3	<変更点>第1段階選抜基準:約5倍⇒約4倍 <共テ>※理:物or化or生or地学 ⇒※理:物or化or生 第1段階選抜の基準が厳しくなったが、大幅増加で前年度の反動による増減が継続。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は80.3%だった。
富山大	前			900	700	-30	88	60	214	60	244	3.6	4.1	5.5	<変更点><個>数<200>+理2<300>+外<200> +面<100>=総点<800> ⇒数<200>+理2<200>+外<200> +面<100>=総点<700> 減少で2年連続減少。志願倍率も4.1倍→3.6倍にダウン。
	後			1200	350	+77	126	20	378	20	301	18.9	15.1	16.3	3年連続減少の反動で大幅増加。志願倍率は15.1倍→18.9倍にアップ。第1段階選抜は、実施予告倍率の15倍を上回ったが実施されなかった。
金沢大	前			450	1050	+8	103	84	320	84	312	3.8	3.7	2.9	<変更点><個>数<200>+理2<200>+外<200> +面<100>=総点<700> ⇒数<300>+理2<300>+外<300> +面<150>=総点<1,050> やや増加で、2年連続増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は79.7%だった。
福井大	前			900	700	-68	74	55	193	55	261	3.5	4.7	4.0	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も4.7倍→3.5倍にダウン。
	後			450	220	-73	81	25	320	25	393	12.8	15.7	10.1	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も15.7倍→12.8倍にダウン。
岐阜大	前			800	1200	-53	87	37	357	37	410	9.6	11.1	8.4	前年度大幅増加の反動で減少。志願倍率も11.1倍→9.6倍で1桁にダウン。
	後			400	1200	+496	177	25	1141	25	645	45.6	25.8	22.5	2年連続減少の反動で激増。後期で最も志願者数が増加し、志願倍率は25.8倍→45.6倍となった。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は33.2%だった。
浜松医科大	前			450	700	-20	94	64	292	66	312	4.6	4.7	4.8	<変更点>募集人員:(一般枠)66人⇒64人 (地域医療枠)9人⇒11人 2年連続増加の反動で、一般枠はやや減少、地域医療枠は半減近い大幅減少。
	地域医療枠			450	700	-38	51	11	39	9	77	3.5	8.6		
	後			900	350	+136	162	15	357	14	197	23.8	14.1	8.5	<変更点>募集人員:(一般枠)14人⇒15人 (地域医療枠)1人⇒0人 2年連続激増。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は56.0%だった。
名古屋大	前			900	1650	+50	117	90	345	90	295	3.8	3.3	2.8	<変更点><個>国+数+理2+外+面 ※国:現、古、漢 ⇒国+数+理2+外+書類審査 ※国:現 ※面⇒書類審査はコロナ禍対策として コロナ禍対策として面接が書類審査となったこともあり、2年連続大幅増加。
	後	愛知県内		900	0	-1	98	5	54	5	55	10.8	11.0	13.4	<変更点>第1段階選抜基準変更:センター試験が900点満点中720点以上の者 ⇒12倍 ※当初実施なしだったが コロナ禍対策として12倍で実施 コロナ禍対策として第1段階選抜基準が変更となったこともあり、微減だが2年連続減少。

2021年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2021年度		2020年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2021年度	2020年度	2019年度	
東海・北陸	三重大	前		600	700	+103	135	70	401	70	298	5.3	4.0	3.6	大幅増加で2年連続増加。志願倍率も4.0倍→5.3倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は93.8%だった。
			医療枠					5		5					
		後		600	300	+62	151	10	183	10	121	18.3	12.1	13.8	2年連続減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は55.2%だった。
	名古屋市立大	前		550	1200	+14	107	60	208	70	194	3.5	2.8	2.7	<p><変更点> 第1段階選抜基準変更: センター試験が500点満点中375点以上の者 ⇒共通テストが550点満点中75%以上の者 募集人員: 70人⇒60人 <変更点> <共テ> 国<100>+歴公<50>+数2<125> +理2<125>+外<100>=総点<500> ※理: 物or化or生or地学 ⇒国<125>+歴公<75>+数2<125> +理2<100>+外<125> =総点<550> ※理: 物+化 <個> 数<150>+理2<200>+外<150> +面<200>=総点<700> ※理: 物or化or生 ⇒数<300>+理2<400>+外<300> +面<200>=総点<1,200> ※理: 物+化</p> <p>2年連続増加で、志願倍率も2.8倍→3.5倍にアップ。</p>
近畿	滋賀医科大	前		600	600	+22	113	55	197	55	175	3.6	3.2	5.8	<p><変更点> <共テ> 英(筆記) ⇒英(リーディング+リスニング)</p> <p>5年連続減少の反動で増加。</p>
			地域枠	600	600	-15	78	5	53	5	68	10.6	13.6		
	京都大	前		250	1000	+21	108	105	299	105	278	2.8	2.6	2.9	<p><変更点> 第1段階選抜基準変更: センター試験の合計が900点満点中630点以上の者のうちから、募集人員の約3倍まで ⇒約3倍</p> <p>2年連続減少の反動で増加。 ※募集人員に特色入試欠員分の3人を含む(2021,2020年度とも)。</p>
	大阪大	前		500	1500	-46	84	95	233	95	279	2.5	2.9	2.4	<p><変更点> 面(1回のみ) ⇒面(複数の面接官による評価を参考にし、場合によっては複数回行う)</p> <p>大幅減少で、前年度の反動による増減が継続。志願倍率は2.4倍→2.9倍→2.5倍に変動。</p>
	神戸大	前		360	450	+11	104	92	261	92	250	2.8	2.7	3.0	<p><変更点> 第1段階選抜基準変更: センター試験が900点満点中650点以上の者 ⇒約3倍</p> <p>3年連続減少の反動は小さくやや増加。</p>
	京都府立医科大	前		450	600	+28	111	100	277	100	249	2.8	2.5	3.0	<p><変更点> 第1段階選抜基準変更: 4倍⇒3倍 <個> 数+理2+外+面⇒数+理2+外+面+論</p> <p>前年度大幅減少の反動で増加。</p>
	大阪市立大	前		650	800	+20	110	75	225	75	205	2.8	2.6	3.5	<p><変更点> 出願資格: (大阪府指定医療枠) 大阪府出身者のみ出願可 ⇒全国から出願可</p> <p>2年連続減少の反動で増加。</p>
			指定枠					5		5					
	奈良県立医科大	前		450	450	-10	94	22	153	22	163	7.0	7.4	9.3	<p>やや減少で2年連続減少。</p> <p>前年度大幅増加の反動で減少。</p>
後			300	900	-80	92	53	888	53	968	16.8	18.3	15.0		
和歌山県立医科大	前		600	700	+56	143	64	187	64	131	2.9	2.0	4.7	<p>前年度半減以下の大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も一般枠2.0倍→2.9倍、医療枠2.7倍→3.7倍にアップ。</p>	
		医療枠					15	56	15	40	3.7	2.7	5.7		
中国	鳥取大	前		900	700	-27	93	58	359	58	386	4.5	4.9	7.0	<p><変更点> 第1段階選抜基準変更: 実施なし⇒共通テストが900点満点中600点以上の者</p> <p>3年連続減少で、志願倍率も4.9倍→4.5倍にダウン。</p>
			鳥取県枠					14		14					
			兵庫県枠					2		2					
			島根県枠					5		5					
	島根大	前		700	460	-64	85	55	363	55	427	6.6	7.8	6.1	<p>一般枠は前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も7.8倍→6.6倍にダウン。定着枠は前年度大幅減少の反動は小さく、やや増加に留まった。</p>
定着枠							3	27	3	26	9.0	8.7	5.1		
岡山大	前		900	1200	-18	95	98	359	98	377	3.7	3.8	3.3	2年連続増加の反動は小さくやや減少に留まった。	
広島大	前		900	1800	+11	102	90	495	90	484	5.5	5.4	6.6	前年度大幅減少の反動は小さく微増に留まった。	

2021年度入試状況分析【国公立大】

地区	大学	日程	方式	配点		志願者数増減		2021年度		2020年度		志願倍率			コメント
				共テ	個別	増減数	指数	募集人員	志願者数	募集人員	志願者数	2021年度	2020年度	2019年度	
中国	山口大	前		900	600	-3	99	55	306	55	309	5.6	5.6	3.2	<変更点><共テ>※理:化+(物or生) ⇒※理:(物or化or生)→2 前年度大幅増加の反動は小さく前年度並。
			後	900	500	-2	99	7	212	7	214	21.2	21.4	38.1	
			地域枠	900	500			3		3					
四国	徳島大	前		900	400	+61	140	64	212	64	151	3.3	2.4	3.4	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も2.4倍→3.3倍にアップ。
	香川大	前		700	700	+95	133	70	382	50	287	4.8	4.9	4.6	<変更点>第1段階選抜基準:約5倍⇒約4倍 募集人員:59人(医療推進枠:9人含む) ⇒79人(医療推進枠:9人含む) 後期募集停止による募集人員の増加もあり、大幅増加で3年連続増加。第1段階選抜は、実施予告倍率の約4倍を上回ったが実施されなかった。
		地域枠					9		9						
		後							25	433			17.3	19.0	
	愛媛大	前		450	700	+225	174	55	531	40	306	9.7	7.7	5.7	<変更点>募集人員:40人⇒55人 <個>数+理2+外+面 ⇒数+理2+総合問題(英文含む)+面 後期募集停止による募集人員増加もあり、大幅増加で3年連続増加。志願倍率も7.7倍→9.7倍にアップ。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は62.1%だった。
		後							25	432			17.3	12.6	
高知大	前		900	1000	-106	74	55	294	55	400	4.9	6.7	4.3	前年度大幅増加の反動で大幅減少。志願倍率も6.7倍→4.9倍にダウン。	
	地域枠						5		5				5.8		
九州・沖縄	九州大	前		450	700	+5	102	110	276	110	271	2.5	2.5	3.2	前年度大幅減少の反動は小さく、微増に留まり、志願者数は2年連続300人を下回った。
	佐賀大	前		630	400	-30	89	50	242	50	272	4.8	5.4	5.7	3年連続減少。志願倍率も5.4倍→4.8倍にダウン。
		後		630	280	+24	111	10	239	10	215	23.9	21.5	20.4	2年連続増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は61.5%だった。
	長崎大	前		450	800	+138	149	76	422	76	284	5.6	3.7	5.2	2年連続大幅減少の反動で大幅増加。2段階選抜が実施され、第1段階選抜の合格率は90.0%だった。
	熊本大	前		400	800	-155	68	90	332	90	487	3.7	5.4	5.6	大幅減少で2年連続減少。志願倍率も5.4倍→3.7倍にダウン。
	大分大	前		450	550	-107	62	55	178	65	285	2.7	4.4	4.4	<変更点>募集人員:(一般枠)65人 ⇒(一般枠)55人、(地元枠)10人 地元枠が新設され一般枠の募集人員が減少。大幅減少で志願倍率も4.4倍→2.7倍にダウン。
		地元枠						10							
	宮崎大	前		900	600	+70	131	50	296	50	226	5.9	4.5	8.5	前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も4.5倍→5.9倍にアップ。
		後		900	300	+38	111	20	397	20	359	19.9	18.0	19.4	
	鹿児島大	前		900	920	-83	75	69	249	69	332	3.6	4.8	5.2	大幅減少で2年連続減少。志願倍率も4.8倍→3.6倍にダウン。
後			900	320	+30	111	23	291	23	261	12.7	11.3	15.8	前年度大幅減少の反動で増加。	
琉球大	前		900	800	+50	119	70	314	70	264	4.5	3.8	5.4	2年連続減少の反動で大幅増加。	
	後		1000	300	+92	129	25	413	25	321	16.5	12.8	18.2		前年度大幅減少の反動で大幅増加。志願倍率も12.8倍→16.5倍にアップ。

2021 年度入試状況分析【国公立大】

〔志願者数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
愛媛大	531 (55)	岐阜大	1,141 (25)
広島大	495 (90)	山梨大	1,057 (90)
信州大	476 (95)	奈良県立医科大	888 (53)
福島県立医科大	430 (80)	千葉大	433 (20)
長崎大	422 (76)	琉球大	413 (25)

〔志願者数が少なかった大学〕

前期日程		後期日程	
奈良県立医科大	153 (22)	名古屋大	54 (5)
大分大	178 (65)	旭川医科大	100 (8)
群馬大	188 (71)	山形大	147 (15)
福井大	193 (55)	東京医科歯科大	150 (10)
筑波大	206 (62)	三重大	183 (10)

※()内は募集人員。一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数を掲載。

〔増加数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
愛媛大	+225	岐阜大	+496
福島県立医科大	+160	浜松医科大	+136
長崎大	+138	琉球大	+92
信州大	+104	富山大	+77
和歌山県立医科大	+72	三重大	+62

〔減少数が多かった大学〕

前期日程		後期日程	
鳥取大	-1,185	山口大	-216
高知大	-504	旭川医科大	-187
横浜市立大	-460	奈良県立医科大	-81
弘前大	-440	福井大	-73
山形大	-299	山梨大	-50

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の志願者数で増減を算出。

〔志願倍率が高かった大学〕

前期日程		後期日程	
愛媛大	9.7	岐阜大	45.6
岐阜大	9.6	佐賀大	23.9
旭川医科大	7.0	浜松医科大	23.8
奈良県立医科大	7.0	千葉大	21.7
島根大	6.7	山口大	21.2

〔志願倍率が低かった大学〕

前期日程		後期日程	
大阪大	2.5	山形大	9.8
九州大	2.5	名古屋大	10.8
群馬大	2.6	山梨大	11.7
大分大	2.7	旭川医科大	12.5
京都府立医科大	2.8	鹿児島大	12.7
大阪市立大	2.8		
神戸大	2.8		
京都大	2.8		

※一般枠と地域枠に分けて志願者数を公表した大学は、日程合計の募集人員、志願者数で算出。